

光市医師会報

平成6年10月号

No. 264



山 車

光市医師会

板垣省三先生 『出版祝賀会』

9月18日(日)午後6時～

於：松屋

「検診・人間ドック項目別査定便覧」の出版を記念して、富恵先生、近藤先生が發起人となられ、祝賀会がおこなわれました。当日は40名という多くの会員が出席されましたが、板垣先生のお人柄によるものと思

います。

多くの先生方が挨拶をされ、大変盛大で楽しい祝賀会でした。板垣先生の挨拶が大変ユニークで面白く、会場を笑いの渦に巻き込まれておりました。



お礼の挨拶

過分の祝賀会開いていただき、感謝に耐えられません。あれは著書ではありません、活字をならびかえただけですとお断りしたのですが、有志のささやかな酒盛りということで、松屋も新しくなったして出席したところそうそうたる先生方、しかも大人数のご参加で驚いた次第です。この百戦錬磨の小生をだましぬいたとは会長もなかなかの策士と感服しています。

いま市立病院は副院長を新しい柱とした体制づくりにあります。私の株は音をたてて墜落中です。くやしいけれど手術の後遺症がひどすぎました。メシも昔の6割でおさえないとまた腸を切るようになったらまちがいなく短腸症候群で最悪のときは中心

板垣省三

静脈栄養者だそうで、小生より女房の方がびびっています。年金で細ぼそ食えればよいと。

事実、病棟も離れると医者は淋しいものです。頑張っても定年まであと5年。外来に小生希望の方は申し出てくださいと書いた板切れも効果うすく秋風にむなしくたなびいています。ときおり物好きな？先生からくる紹介患者が心の支えです(昔だったら、またかっ！一いや失礼)。新患は診ないようにしても18年間ひいきの患者で疲れます。有り難い事です。もうすこし私でなくては出来ないことも少しは残っており頑張りますのでよろしく。

(会員広場)

お彼岸に寄せて

とみえさとし

お彼岸の様な言葉を使うのは年を取った証拠であろうか？。

板垣先生の出版祝いの後、誰とはなしに「久振りに一寸やるか」との言葉で、二次会の「ミサ」に集合。例に依って悪童連中の集まりである。がやがや、わいわい騒ぎ乍ら「からおけ」が始まる。竹中君は又新しい歌を仕入れ披露して、こんな歌も知らんのかと得意の喉を聞かせてくれる。唯々脱帽。その内、思い出のメロディになり色々古い歌が出てくる。亡くなった大野先生、亀田君の十八番が出て来た。韓国語の「黄色なハンカチ」を歌うと、亀田との昔の思い出話が出てくる。突然、「亀田が死んで何年かのお？」との声が出てくる。その辺りは福本君の出番である。おもむろに懐から出した手帳を見て「今年が十三回忌だぞ」と返事をしてくれる。変った才能の持ち主である。それから、がやがや。亀田のお墓参りの話が出てお彼岸の中日に出掛ける事に決定。

お墓のある西部霊園に出掛ける。その昔、亀田の墓が出来た頃は墓石もまばらだったのが、今は殆ど満杯の状態である。「大分ご無沙汰したが墓は何処だったかな？」と眩き乍ら見当を付けて探し歩く。立派な亀田家の墓の前に着く。花を供え、水をあげ、大地に帰える様にと、墓石に水を注ぐ。渡辺君はカンビールを開けてビールを墓に飲ませて居る。

「酒が好きだったからな」と言いながら。蠟燭を灯し、線香を点け、暫し瞑想。終わってから墓石の前に腰掛けて昔を偲んでいる。「あいつ、酒より酒の席が好きだったのかなあ」と。飲み屋での出来事、ゴルフ遠征の話、彼女にふられた話等々。終に、昼から一席設けて追悼会を開き彼を偲んだ次第である。

私にとって彼は、数少ない友人の一人であった。年齢は彼が一つ上。言いたい放題の事を言わして貰い、色々迷惑を掛け、その上仕事まで手伝って貰った。

一番の思い出は医師会の職員のレクリエーションを企画した事であろう。昭和四十年代の始め頃であった。病院勤務に憧れて止めて行くナースを引き留める為、何か策を考え様とソフトボール大会を開いたのが始まりである。今では考えられない様な菓屋のサービスで若い連中が金を集め、それで素晴らしい参加賞を奮発してレクリエーションを盛り上げた。翌年から出席者が倍増。人数が多いので数年後には運動会を企画、若い会員で色々考え楽しい運動会を作った事、賞品を彼と二人で買い出しに出掛けたのを今改めて思い出す。ワコールえ入ってショーツを賞品に試用とパンティを色々引張り出し、品定めをした事、女性の客の中で唯二人の男性なので恥ずかしかったのを思い出す。聖光高校の体育館での運動会は圧巻であった。若い連中は亀田が借り

て来てくれた衣装を着て女装し、舞台に立ったのを思い出す。弁当は伊藤君が買い出しに行ってくれた山賊のむすびで、これ又運動会に花を添えてくれたと記憶している。

遊びばかりでなく、勉強会も度々行った様に記憶している。確か、お年寄りを批判する様な言葉で勉強会の開催を告げて怒られた事がある。例会毎に一杯飲む風潮を変

えて勉強会とする事に力を貸してくれたのも亀田であった様に思う。

変わった奴であったが古い光医師会の行き方を幾らか変えてくれた男であった。

お彼岸の墓参りの後、ふと昔を思い起こし、ペンを走らせたが、これも年の所為であろうか？。

光医師会ゴルフコンペ

日時 9月25日(日)

於 虹ヶ浜カントリー

		G	WP	N
優勝	蒔 苗	82	8.4	73.6
2位	森 本	88	14.4	73.6
3位	横 山	85	10.8	74.2
4位	藤 村	89	13.2	75.8
5位	兼 清	106	30.0	76.0
6位	清 水	114	30.0	84.0
7位	南	116	27.6	88.4



緑友会幹事の反省

兼 清 照 久

今年より、伝統と格式を誇る緑友会の幹事を拝命いたしました、大変光栄に思っています。私は張り切っているのですが、何分、私が仕事にグズなのと不馴れなためとで会員各位に、大変御迷惑ばかりかけて、申訳なく思っています。

例えば、9月25日の光市医師会コンペでは、開催日が悪くて4人しか参加がなく、その上、オブザーバーに優勝者を出すという二重のチョンボをしてしまいました。

10月2日の松医会との合同コンペでは、逆に参加者が多くて、組がとれなくて密かに辞退してもらったりしてどうもすみませんでした。

今度こそはバッチリ頑張りたいと思いますので、各位の万障繰り合せての御協力をお願い申し上げます。

(会員広場)

カヌーポロ

梅田病院 大月 恭 範

今年8月22日より2日間福井県北潟湖カヌーポロコートにて第一回全日本カヌーポロ選手権大会が行なわれた。

カヌーポロは全日本には各地にいろいろなチームが存在するが、学生チームは少なく、千葉県、埼玉県、福井県で盛んに行なわれているにすぎない。更に小学生チームとなると福井県に10チーム存在するが、他ではあまり聞いたことがない。

カヌーポロの競技はバスケットボールのカヌー版といったもので、各チーム5人ずつ出場し、バスケットボールよりやや小さいボールを使用して相手側のゴールポストにシュートする。10分ハーフで前半、後半の得点を競うのである。その間、選手達は全速力でカヌーをこぎ、ボールをドリブルして相手ゴールに近ずき、パスしあいながらゴールにシュートする。ゴール前にはキーパーがいてパドル(オール)を高くさしあげシュートを阻止する。ボールを持っている相手にはブッシュしてカヌーを転覆させても許されるのである。

今大会の主管は福井大学カヌー部であり、競技会長であるY教授と以前から懇意にしていたため医務係を頼まれた。実は大会運営に多くの費用がかかるため、医師を2日間雇う金が無かっただけのことである。

競技には地元福井大学、福井工大の他、日本大学、駿河台大学、大正大学等や、遠くは台湾の台中師範学院も参加した。

女子チームも数チームの参加があったが、なかでも都会のあるチームのプレーが荒々しいのには驚ろいた。日本カヌー連盟から派遣されてきた審判員も「行儀の悪いチームだ」と苦々しく云っていた。とても田舎のチームはついてゆけなかった。そのチームと福井大学女子チームが対戦した時、ラフなプレーに福井大学チームは防戦一方だった。一人の新人部員の女子学生がボールを持ってシュートしようとした時に相手チームに激しくブッシュされカヌーは転覆した。彼女はまだ自力で起きあがることができず、やっとのことでカヌーから脱出して水面に顔を出した。ライフジャケットを着ているため、なんとか水面に浮いていたが、かなり水を飲んでいたらしい。おりからの風でカヌーは流されていった。彼女は必死に泳いでカヌーに追いつこうとしていたが、カヌーと彼女の差は離れるばかりだった。

力尽きて殆んど前に進めなくなったとき、審判員が気付きプレーを中断させ彼女を助けに行くよう指示した。栈橋に引き上げられた彼女は動こうともせず横たわったままだった。コートの反対側の応援席で私はその一部始終を見ていた。彼女が起きあがる気配もないので心配になってきた。そのうち学生が「先生、お願いまーす。」と呼びにきた。不安になった。溺水など今まで診たことがない。カヌーの試合ではたまに打撲か、すり傷があるくらいですというこ

とで引き受けたのだ。しかし他に誰れも頼りになる人はいなかった。人工呼吸をしている自分の姿を想像しながら、不安な気持ちで棧橋を走った。横たわっている彼女をみて少し安心した。意識は朦朧としていたが、肩でゼーゼーと荒い呼吸をしていた。

気持ちと反対に「心配ない、大丈夫。」といながら、学生と看護婦に命じてスプレースカートを脱がせ、身体を拭き、しばらく様子をみた。呼吸がすこしおちついてきたので大会本部のテントに運び、休むようにいって寝かせた。大会準備などのためよほど疲れていたのだろう。その後ぐっすり眠っていた。翌朝、彼女の元気な顔を見て安心した。怖がってもうカヌーに乗らないのではと思ったが試合にも参加していた。後で聞いたところによると彼女は泳げなかったようだ。

カヌーはよく上半身だけを使うスポーツと思われているが、実際はそうではなくカヌーの中にある下半身に力を入れてバランスをとっているのである。カヌーポロのように急旋回やシュート時、また猛ダッシュ時等には両下肢に入れる力ははなはだしく、試合終了後に下肢の疲れを訴える選手が多かった。

最近のカヌー熱はめざましいものがある。カヌーツーリングやカヌー教室などが各地で盛んにおこなわれているが、カヌーポロは今回のアジア大会でも正式競技にはなっていない。まだまだ競技人口が少ないためであろう。特定の地域にかたよっている指導者が全国に散らばれば競技人口も増え、近い将来に正式競技となるものと期待している。

定例理事会

日時：9月13日(火) 午後7時30分～

場所：光市医師会館（光商工会議所内）

出席者：近藤、前田、藤村、光武、藤原
市川、赤崎、梅田、吉村

議題：

- (1)光商工会議所との覚書について（近藤）
近藤会長作製の覚書案を了承
- (2)第101回周南医学会準備委員会発足について（近藤）
準備委員会を選出する。
前田、赤崎、藤村、光武、梅田、市川
藤原、松村、兼清、河村(兼)、吉村
（委員長—赤崎、副委員長—松村）
会計—前田
- (3)夜間電話連絡網について（梅田）
夜間休日は、各地区に班長をおき、連絡をおこなう。
（班長）
室積地区—松村、光井地区—市川
島田地区—道上、浅江地区—兼清
- (4)健保組合との懇談会について（近藤）
今年は光市医師会が受け持ちで、11月17日(木)に開催予定
- (5)その他
 - ①休日在宅医の免除の件
 - ②神経内科医会よりの要望書について
 - ③被爆者健診の件
11月におこないたい—了承
 - ④医師会員と従業員の親睦旅行の件
 - ⑤10月26日(木)の学術講演の件
 - ⑥永年勤続表彰の件

月例会

日時：9月27日(火) 午後7時30分～

場所：光勤労者総合福祉センター

出席者：27名

議題：

(1)「平成5年度医事紛争について」

講師 担当理事 藤原邦彦先生



(2)「予防接種法の一部改正について」

説明 光市保健センター所長

高光之夫氏

(3)新入会員一岩本先生の紹介

(4)報告事項

①被爆者健診を11月1日～11月30日の期間におこなう。

◎光商工会議所への入所の件

①老健法に基づく健康診査の件

臨時理事会

日時：9月27日(火) 月例会終了後～

場所：光勤労者総合福祉センター

出席者：近藤、前田、藤村、市川、梅田

光武、赤崎、藤原、吉村

議題：光商工会議所入所に伴う覚書きの件
提出する覚書きの最終確認

第75回心電図研究会

光市・下松医師会合同

日時：9月9日(金) 午後7時30分～

場所：光勤労者総合福祉センター

出席者：14名(光市8名)

症例：

(1)52才、♂、右胸心か否かの症例

(2)57才、♂、下壁心筋梗塞

(3)43才、♂、前下行枝前壁梗塞

9月医師会月間行事

日	行 事	場 所	出 席 者
8	板垣先生出版祝賀会	松 屋	41 名
9	心 電 図 研 究 会	光勤労者総合福祉センター	14名(光市医師会8名)
13	定 例 理 事 会	光市医師会(光商工会議内)	9 名
25	光市医師会ゴルフ	虹ヶ浜カントリークラブ	4 名(光市医師会)
27	月 例 会、勉 強 会	光勤労者総合福祉センター	27 名
27	臨 時 理 事 会	月 例 会 終 了 後	9 名



(板垣先生に記念品贈呈)

会員動向 — 退会

新谷敏昭先生（梅田病院）が9月25日に退会されました。

あ と が き

秋もだいぶ深まってまいりました。「秋の日はつるべおとし」と表現されるように日が暮れるのが早くなってきました。ご存知のように水を汲むために井戸に釣瓶を落とすと底へ向って一気に落ちる、その早さを秋の日の沈む早さにたとえたものですが、実際に計っても日没までの時間は早いと言われております。しかし春も短いわけですが、だんだん日が短くなり、暗い冬に向う気持ちが秋のみが早いように感じるのかもしれませんが。その釣瓶も今では余り見る機会もなくなりました。

10月2日、早長神社の祭りの見物に行きましたが、多くの山車が出ておりました。山車を写真にとっておりましたら、法被を着た人から声をかけられ、松村先生だったのでビックリしました。地域の人と一諸になって山車をひいておられる姿をみてうらやましく思いました。（吉村）

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤 龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社